

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

全校一致のもと、誠実でやさしさと活力あふれる人間を形成する。

- 1 一人ひとりの個性・才能を生かし、知力・体力を育成する。
- 2 自ら考え、責任ある行動がとれる人間を育成する。
- 3 誠実で品性の高い教養のある人間を育成する。
- 4 男女・民族・ことばの違いを越え、互いの人権を尊重し、平和を願う人間を育成する。
- 5 自然に親しみ、自然とともに生きることが大切だと思える心を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業および創造性を育成する授業」をめざし、ICT等を活用したアクティブラーニング型授業を行う。

ア アクティブラーニング型の公開授業を年2回は行い、実践する教員を増やしていく。

※教科を超えた公開授業(研究授業)の参加者数(平成27年度:全体の20%)を毎年10%引き上げ、平成29年度には50%以上にする。

※教職員による学校評価の校内研修に関する肯定評価を平成29年度には80%以上にする。

イ 授業シラバスを基に、授業アンケートを2回(7月・12月)行い、本校の生徒実態を踏まえた授業改善に組織的・計画的に取り組む。

※授業アンケートの総合評価の肯定評価(平成27年度:86%)を毎年90%以上にする。

※学校評価アンケート「多面的評価」の肯定評価(平成27年度:75%)を毎年5%引き上げ、平成30年度には90%以上をめざす。

※学校評価アンケート「施設・設備等の学習環境」の肯定評価(平成27年度:82%)を毎年5%引き上げ、平成29年度には90%以上をめざす。

※ICTを活用した授業を実施した教員の割合(平成27年度:67%)を平成29年度には90%以上をめざす。

ウ みらいスクール等を利用してオリジナル教材(含デジタル教材)の共有化を各教科・科目進めていくことで、効率化を図り、教材にかかる時間を軽減していく。

(2) 自ら学習できるように、生徒のニーズに合ったメニューを考え生徒と共有できるルーブリック評価に取り組んでいく。

ア 教科担当、部顧問の連携を密にし、個々の生徒の学習到達度を共有し、補習や講習と部活をスムーズに連動させて学力を向上させる。

※一人ひとりの生徒のポートフォリオを平成30年度までには作成する。

イ 放課後学習会、長期休暇中の講習会などの内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う。

※学校評価アンケート「学習会・講習会」の肯定評価(平成27年度:78%)を平成29年度には90%以上をめざす。

ウ 学習する意欲を高めていくために、「総合的な学習の時間」「課題研究」「小論文」及び各教科等にルーブリック評価を段階的に行なっていく。

※生徒の学習評価において、ルーブリック評価を行う取組みを平成29年度には50%以上をめざす。

エ 本校が掲げている「文武両道」について、その意義やあり方等について検討する。

2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

(1) 「総合的な学習の時間」とLHR等を有機的に連携させ、志学、人権教育等を総合的に行うことのできる「関倉型キャリア教育」の指導計画を確立する。

ア 学年・進路指導部が軸となり、総合的な学習の担当者とも連携し、6年間を見通したキャリア教育を行う。

※学校評価アンケート「体験授業や授業以外の学習機会」の肯定評価(平成27年度:84%)を毎年5%引き上げ、平成29年度には90%にする。

※学校評価アンケート「進路指導」の肯定評価の肯定評価(平成27年度:83%)を毎年5%引き上げ、平成29年度には90%以上をめざす。

イ 外部講師を総合的な学習の時間やLHRにおいて積極的に招くとともに、生徒による振り返り・発表の機会を増やす。

※学校評価アンケート「講演・体験授業などの機会が多い」の肯定評価(平成27年度:84%)を平成29年度には90%以上をめざす。

ウ 校内実力や外部模試等のデータを一つにまとめ、新たに進路資料システムとして、eポートフォリオを作成して学習指導・進路指導に活用する。

※難関大学合格者(平成27年度:国公立大学合格者数149名、東大、京大、阪大、神戸大の合格者数合計30名)を平成29年度までに国公立大学合格者数180名以上、東大、京大、阪大、神戸大等の難関国公立大学の合格者数合計60名以上(京大合格者数10名以上)に引きあげる。

(2) 学校全体としてグローバル人材に必要とされる英語運用能力(リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能)の育成に取り組む、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。

ア 英語によるコミュニケーション力の育成(リスニング・プレゼンテーション講習・放課後の校内留学)

イ 校内留学として、希望者に対してより高度なエンパワーメント・プログラム(日本のトップ大学に留学している外国人大学生、大学院生とのディスカッションやコミュニケーションを通して、自分の将来に何が必要かを考え、気づき、行動していけるようなグローバル人材を育成するプログラムで全日5日間学校で実施)を実施する。

ウ おおさかグローバル塾への応募者数・合格者数を増やす。

エ 語学研修の機会を拡大し、生徒の英語力を向上させ、多様性受容力を高める。

オ 6貫生において、中学3年の3学期において、探求学習(中期留学・各テーマ別課題等々)を検討する。

※実践的英語力の伸びを測定するのに、英語学力調査及び実用英語技能検定等を用いる。

※海外語学研修[英国オックスフォード]の希望者(平成27年度:20人)を毎年10人引き上げ、平成29年度には50人にする。

※留学に関する意識調査(文科省)の「留学したい(国際社会への関心)」の割合(平成27年度:58%)を、平成29年度には75%以上にする。

(3) 地域関係諸機関との連携、高大連携について協議し、推進する。

ア 大阪大学IRIS(国際教育交流センター)等と提携し、留学生との交流を通じて実践的な英語力の向上を図る。

イ 立命館大学との提携による高大連携推進協議会による事業を開始する。

ウ 保護者、地域関係者に対する生徒校内発表の場への参加呼びかけを拡大するなど地域との交流を図る。

※学校評価アンケート「生徒と保護者と地域の人たちとの交流」の肯定評価(平成27年度:44%)を毎年5%以上引き上げ、平成29年度には60%以上にする。

3 安全・安心で魅力のある学校づくりのための組織の確立

(1) 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制を充実させる。

※学校評価アンケート「教育相談」の肯定評価(平成27年度:88%)を毎年5%以上引き上げ、平成29年度には90%にする。

(2) 保護者に対して積極的かつ効果的な広報活動を行う。

ア 学校行事等のHPでの紹介、学年だよりを充実させる。

(3) 生徒理解の促進と安心・安全な学校づくりのための体制の確立をめざす。

ア 学校保健委員会・安全衛生委員会を定例化し充実をはかる。

4 教員の授業力等の資質向上に向けた取組み

- (1) 全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年2回組織的に実施する。
 - (2) 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートの結果を教科会議で分析し、改善策を検討する。
 - (3) ICT活用として、教職員間で教材の共有を図ることで、アクティブラーニング型授業の普及に努める。
 - (4) 本校において、経験年数の少ない教員とミドルリーダーのコラボによる教員の研修を組織的に行い、学校をより活性化させる。
 - (5) 年度の必要性に応じて、教員研修として、複数回、人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。
- ※学校評価アンケート及び授業アンケートによる教員研修を必ず1回（10月頃）は実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校関係者からの評価】

学校評価アンケートの結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校関係者評価
<p>○平成28年度の学校評価アンケートについて、生徒からの回収率はほぼ100%、保護者の方は50%の回収率で、昨年度に比較して約10%増の状況です。「満足」「ほぼ満足」の評価は中学生及び保護者ともほとんど80%以上であるが、少し気になる項目として、</p> <p>①「本校には、他の学校にない特色ある教育活動をしている」に対して、保護者も生徒も70%程度で、他の項目に比べると若干評価は低い。</p> <p>②「グローバル、ICT、アクティブラーニング等の新しい教育課題について学ばせようとしている」に対して、保護者も生徒も70%程度で、他の項目に比べると若干評価は低い。</p> <p>③学校のホームページをよく見る」に対しては、40%を下回っている。</p> <p>○これらのアンケート結果から言えることは、次の3点を課題として次年度に向けて改善していきたい。</p> <p>①六貫生の特色が見えない。</p> <p>②グローバル、ICT、アクティブラーニング等の新しい教育課題への対応。</p> <p>③学校ホームページ充実。</p> <p>①について、学校行事や学習面でも色々な取り組みをやっているものの、取り組んでいる内容に対する意識づけをより明確にしていく必要がある。高校生に上がると六貫生として、高校から入ってきた生徒とのクラスは分けているが、六貫生クラスとしての特性を生かした特別メニューがあるわけではない。六貫生の特色が見えないことは、外からの評価委にも関わり、中学入試の募集にも大きな影響が出ている。ただし、医歯薬系を中心に六貫生の進路実績が出ていることは間違いなく、外に対する見せ方が下手であるとの(教育関係機関等からの)指摘も受けている。今後、六貫生の特色が見えるような取り組みも考える必要がある。</p> <p>②について、行事ごとにもう少し生徒を信頼して、生徒たちができることを増やしていくことも必要かと思われる。また、授業も同様に一斉授業だけでなくICTを活用したり、アクティブラーニング型の授業で生徒たちも(主体的に)動ける形を若い先生方を中心に組み立てるように教育課程を考えていく必要がある。</p> <p>③について、生徒や保護者及び広く受験生に対して、学校に対する関心は年々高まっている中、学校での活動状況をよりこまめに更新して、更なる学校理解に向けてホームページの充実を図っていく必要がある。</p>	<p style="text-align: center;">第1回(平成28年10月15日) 第2回(平成29年4月22日)</p> <p>現状の関倉中学校、高校にどれくらい魅力があるかを掘り起こして、それを説明会や見学会でどんどん表に出していく。見学会に来たら教員・職員・生徒・保護者の方がみんなで頑張っていて一体感がある。そして進学先がこんなに色々あってしかもなんとなく楽しくてきれいといった印象を持ってもらえただけで随分違ってきます。</p> <p>関西大倉では、先生方が一生懸命されていることも分かっていますので、それが外部にうまく伝わるような仕組みを考える必要があります。アンケートの結果については、学校に対する印象が変われば、そのためにはバスに乗ることも厭わない、バスに乗って初めて良いものが得られるんだよというぐらいのバスの存在になれるよう工夫してほしいです。</p> <p>「中高一貫教育を効果的に行っている」と言われても入学早々の生徒はあまりよくわかっていないと思います。入った生徒たちに入学おめでとうと言い、君たちのビジョン、ゴールはここだとバシッと示す必要があるのではないのでしょうか。そのために教員はベストを尽くすと、後は君たちのベストが求められているんだということを語る必要があると思います。それが原動力、エンジンとなって、「よっしゃやるぞ」となって、決して第一志望でない人もいると思うんですけど、もうそのことは忘れてここでできることを精一杯やるぞ、第一志望で行った地元の友達を見返してやるぞといった発奮というものがあれば良いと思います。</p> <p>教育課程の工夫をしているという点も低めだと言っていたが、それも生徒たちがビジョン・ゴールを実感するかが大きく関連していて、関西大倉が提供してくれている教育環境や機会を聞く限りでは、こんな工夫をしてくれてもらっているんだ、こんな工夫があるんだと生徒が実感できるような、生徒自身も熱くなれるように先生方から語っていただいたらどうでしょう。例えば、成績表を本人と保護者の両方に送り、成績表と同時に学習相談会等の案内も一緒に入れ、何か心配な点がありましたらなんでもお聞きします相談に乗りますということで、今こんなことをやっていないといけない、あるいは出来てないといけないということを文字にして送ってしまして、これで心配な人は来て下さいというようなことの内容です。</p> <p>関西大倉中学校は、まだまだ伸びていく要素はたくさんあるという熱意を感じていますので、これからも頑張ってください。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価

<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 「わかる授業、充実した授業および創造性を育成する授業」をめざした授業改革 ア・アクティブラーニング型授業の開発 イ・授業アンケートの効果的活用 ウ・オリジナルテキスト教材の拡充 (2) 自ら学習できるように、生徒にニーズに合ったメニューを考えると共にルーブリック評価に取り組む。 ア・一人ひとりの生徒の学力到達度を共有する。 イ・放課後学習会などの充実。 ウ・ルーブリック評価を段階的に行なっていく。</p>	<p>(1) ア・本校の生徒実態を踏まえ、6年間を見通した学習到達目標の点検を行う。各教科センターレベルは確実にこなせるようにする。 ・小論文、面接、集団討論、プレゼンテーションなどに対するルーブリック評価の研究を行う。 イ・他校の実践的なアクティブラーニング型の授業を見学し、その手法を学び教科活動に取り入れていく。アクティブラーニングに関する委員会を定期的に開催する。 ・電子黒板機能付きプロジェクターを活用した授業の研究と実践を進める。 ・増設した第二情報教室を ICT 活用として、各教科に広げる。 ウ・各教科でオリジナル教材（含デジタル教材）の共有化を進める。プリント教材を冊子として保管・整理の利便性につとめる。 (2) ア・一人ひとりの生徒のポートフォリオ作成を検討しそのひな形を作成する。 イ・放課後学習会を1学期中間考査終了後、生徒の状況を踏まえて拡充する。 ・大学別など受験校に対応した講座を細分化する。 ウ・生徒の学習評価におけるルーブリック評価作成を、アクティブラーニングに関する委員会で検討する。</p>	<p>(1) ア・生徒授業アンケートの肯定評価を平成28年度には80%以上 ・学校評価「多面的評価」の肯定評価80%以上 ・ICTを活用した教員の割合を70%以上 ・学校評価「施設・設備等の学習環境」の肯定評価を70%以上 イ・教科を超えた公開授業（研究授業）の参加者数を50%以上にする。 ・教職員による学校評価の「校内研修」に関する肯定評価を75%以上 ウ・オリジナル冊子を3教科以上作成 (2) ア・ポートフォリオのひな形を作成する。 イ・学校評価アンケート「学習会や講習会」の肯定評価を80%以上 ・高校1年時に英語・数学・国語を中心に基礎・標準の学習会を開設 ・京都大学の二次対策講座を設定 ウ・ルーブリック評価を行う取組みを実験的に実施する。</p>	<p>(1) ア アンケートによる満足度は82%でほぼ予定通り。 (○) イ 教科を超えた公開授業(研究授業)は一部の教員間では行ったが、全体としてはほとんどできなかった。(△) ウ 一部の教員でとどまる。(△) (2) ア 進路指導部を中心に冊子を考案する。(○) イ 「学習会や講習会」の肯定評価を82%で、ほぼ計画通りには行うことができた。(○) ウ アクティブラーニング委員会は週1回開催することができ、ルーブリック評価等の評価法やAL型の授業研究等、委員のメンバーは非常に積極的に活動することはできた。次年度以降は、その成果を他の教員にどう反映させていくのが課題となる。(○)</p>
-----------------------	--	--	--	---

<p>2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立</p>	<p>(1) 「関倉型キャリア教育」の指導計画を確立する。 ア・3年間を見通したキャリア教育 イ・外部講師の積極的招聘 ウ・新たな進路システムの確立 (2) グローバル社会に貢献できる人材育成 ア・英語によるコミュニケーション力の育成 イ・エンパワープログラムの実施 ウ・語学研修の機会の拡大 エ・中期留学の検討 (3) 地域関係諸機関との連携推進(高大連携) ア・生徒の自主活動を通して地域との交流</p>	<p>(1) ア・総合的な学習の担当が軸となり、学年・進路指導部と連携し、3年間を見通したキャリア教育の計画をたてる。 ・毎月の進路志望調査と個人面談により、高い志を維持する。進路志望に変更があった場合、時期を空けずに個人面談を行う。 イ・関倉版「学問体感(国公立大学教員による出前授業)」に関して、事前に生徒から希望アンケートをとり授業内容の充実を図る。 ウ・校内実力や外部模試等のデータを一つにまとめ、新たに進路資料システムとして、eポートフォリオを作成する。 (2) ア・放課後の校内留学の開催曜日を増やし生徒が参加しやすい環境を整備する。 ・実用英語技能検定試験のスコア・資格の取得に向けての対策を講じる。 イ・希望者を対象に中学生用エンパワープログラムとして、探求型プログラムを通して、グローバルリーダーを育成する。 ウ・語学研修の機会を拡大し、事前・事後学習の充実を図りながら生徒の英語力を向上させ、多様性受容力を高める。 ・地元「マタークラブ」や各種留学機関と連携して、短期留学生の受け入れを検討する。 エ・6貫生徒の中学3年の3学期における探求学習として、中期留学(含ニュージーランド視察)等のプログラムを検討する。 (3) ア・部活動を通じ地域との交流を深める。 吹奏楽部：茨木特別養護老人ホーム演奏会(8月) 和太鼓部：茨木里山まつり(5月)、東村秋祭り(10月)、茨木市農業祭(11月) ダンス部：箕面まつり(7月) ソフトテニス部：ルキーズカップ(12月)・萩村杯(3月)など 中学生大会主催・運営 サッカー部：阪神サマーサッカーコンテスト(8月)・茨木・島本中高交流フェスティバル(10月)開催 ・古典芸能鑑賞会、情報プレゼン発表会、学園祭、体育祭などの生徒校内発表の場への保護者、地域関係者への参加呼びかけを拡大する。</p>	<p>(1) ア・学校評価アンケート「体験授業や進路講演などの学習機会」の肯定評価を80%以上 ・学校評価アンケート「進路指導」の肯定評価を80%以上 イ・「学問体感」参加生徒を年間500名以上 ウ・eポートフォリオを作成する。 ・国公立大学合格者数を国公立大学合格者数180名以上、東大・京大・阪大・神戸大等の難関国公立大学を50名以上(京大5名以上) (2) ア・放課後校内留学の参加者数を50人以上 ・実用英語技能検定試験の各学年での準2級および3級の合格者を90%以上にする。 イ・中学生用エンパワープログラム実施に向けた計画を立案する。 ウ・海外語学研修「豪州ホームステイ」の参加者を40人以上 エ・探求学習プログラム(含成果の発表)を作成する。 (3) ア・学校評価アンケート「生徒と保護者と地域の人たちとの交流」の肯定評価を50%以上</p>	<p>(1) ア 学校評価アンケート「進路指導」の肯定評価は82%でほぼ予定通り実施することができた。(○) イ 参加生徒を年間400名以上で昨年より少し減少した。ただ、内容等の充実感については、生徒の評価は昨年以上に高かった。今後も内容を充実させるとともに、より参加人数が増えるよう時期等も検討していく。(△) ウ 進路指導部を中心に校務処理システムや模試等のデータをベースにしたデータベースづくりのシステムを構築しているところ。(△) (2) ア 放課後校内留学の参加者は40名程度、また、実用英語技能検定試験の各学年での準2級および2級の合格者を前年度比10%増にとどまった。(△) イ 中学生用エンパワープログラムについて、中3時3学期におけるターム留学等検討をしている段階。(△) ウ 参加数は35人に留まった。(△) エ 中3時3学期におけるターム留学等検討をしている段階。(△) (3) ア イ ほぼ計画通り実施することができた。また、その肯定評価も60%に達した。(○)</p>
-------------------------------------	--	---	--	---

<p>3 安全・安心な学校のための体制確立</p>	<p>(1) 校内教育相談体制の充実 (2) 積極的かつ効果的な広報活動の実施。 (3) 安心・安全な学校体制の確立 ア・いじめ対策委員会の活性化 イ・学校保健委員会・安全衛生委員会の充実 ウ・緊急の場合に備えて全教職員がAEDの使用法を学ぶ。</p>	<p>(1) ア・カウンセラー2名配置により、より教員等との連携でき、迅速かつ適切な指導ができる体制を確立する。また、必要とする生徒を見立て、必要とあれば他の専門機関を紹介する等の役割を担う。 (2) ア・学校HPの充実及び小中学校・塾等の教育関係機関との連携を図る。 イ・28年度は、中学入学入試のweb志願を行う。 ウ・入試制度(含内容)についても検討する。 (3) ア・いじめ対策委員会が中心となり、アンケート等をもとに生徒のケア体制を確立する。 イ・警報等発令時に加え下校時刻の変更時の緊急メール配信の迅速化をはかる。 ・産業医(学校医)、社労士と連携する。 ウ・より生徒の安全性を高めるために、新たに2台のAEDを設置(合計7台)して、救急救命講習会も2回実施する。</p>	<p>(1) ア・学校評価アンケート「教育相談」の肯定評価を80%にする。 (2) ・学校紹介DVDを作成する。 ・学校説明会の参加人数を昨年度15%増にする。 ・広報活動を学校全体で組織的にやっている。 (3) ア・いじめ、セクハラ、体罰等の早期発見や予防のために、「いじめ対策委員会」が中心となり、全生徒に向けてのアンケート(年2回)を行い、ケア体制の確立も図るというPDCAサイクルを確立する。 イ・緊急メールの配信者を2人体制とし、相互確認をも実施 ・学校保健委員会を年間3回 安全衛生委員会を毎月実施 ウ・救急救命講習会の参加人数と実施回数。</p>	<p>(1) ア 肯定評価は82%で適切に機能していると思われる。(○) (2) 学校紹介DVDは作成することができなかった。また、学校説明会の参加人数もほぼ昨年度並みであった。まだまだ、広報活動を学校全体で組織的にやっているとは言えない状態であった。(△) (3) ア 「いじめ対策委員会」が中心となり、全生徒に向けてのアンケートを実施することができ、ケア体制の確立も図ることができた。ただ、アンケートは1回しか実施することはできなかった。(△) イ 緊急メールの配信者を2人体制とし、相互確認をも実施することはできた。ただ、学校保健委員会は1回の開催しかできなかった。(△) ウ 救急救命講習会は2回実施することができ、今まで講習を受講したことがない教員はほぼ全員参加することができた。(○)</p>
---------------------------	--	--	--	--

<p>4 教員の資質向上のための取組み</p>	<p>(1) 全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年2回組織的に実施する。 (2) 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートの結果を教科会議で分析し、改善策を検討する。 (3) ICT活用として、教職員間で教材の共有を図ることで、アクティブラーニング型授業の普及に努める。 (4) 本校におけるビジョン共有のための経営会議を行い、将来に備えた学校力を高める。 (5) 年度の必要性に応じて、教員研修として、複数回、人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。</p>	<p>(1) ア・全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年間2回実施する。 (2) ア・教科ごとに年1回の授業見学、さらに教科を越えて教員相互授業見学と研究協議を行い、教科・科目としての授業改善を図る。更に、全体研修会を1回は必ず行う。 (3) ア・これまで各教員が個々に管理していた教材について、ICTを活用して、教職員間で情報共有できるシステムを構築する。 イ・生徒の興味・関心が高まるようなアクティブラーニング型の授業を増やしていく。 (4) ア・本校における学校のビジョンを共有するための経営会議を、管理職と教員との間で月2回程度開き、将来の学校像を構築していく組織とする。 (5) ア・最低年2回は、教員研修として、人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。 イ・学校評価アンケート及び授業アンケート結果による教員研修を必ず1回は実施する。</p>	<p>(1) ・生徒授業アンケートの肯定評価について、2回目は10%上がるようにする。 (2) ・授業見学の実施。 ・教職員研修の実施。 (3) ア・教材の共有化の割合を40%以上。 イ・アクティブラーニング型の授業を行う教員を20%以上 (4) ・経営コンサルタントを交えた経営会議を月2回程度行う。 (5) ・実施した研修の回数</p>	<p>(1) 生徒授業アンケートは1回しか実施することができなかった。(△) (2) 実施できなかった。(△) (3) ア 教材の共有化の割合は30%程度に留まった。(△) イ アクティブラーニング型の授業を行う教員は20%程度でほぼ横ばい。(△) (4) 学校経営会議は月1回実施することができた。(△) (5) 実施できていない。(△) *今年度はほとんどできなかった教員の資質向上のための研修を次年度は計画的に実施していく必要がある。</p>
-------------------------	---	--	--	---